

学 位 論 文 の 要 約

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程） 看護学領域 看護教育分野	氏 名	宮村 啓子 みやむら けいこ
<p>主論文の題名</p> <p>看護師の自律的な学習動機づけが看護継続教育での学習継続意思と自己形成意識へ及ぼす影響</p> <p>宮村 啓子</p> <p>主論文の要約</p> <p>I 導入</p> <p>看護職には、生涯継続的に学習することが求められている（看護継続教育の基準，日本看護協会，2012）。また、継続学習では看護師が自律的に学習することが望ましいため、病院組織では、看護師が自律的に学習できるよう教育的にどのように支援していくかが課題となっている。</p> <p>□ 背景</p> <p>看護継続教育では、これまで国内外において看護師の教育を効果的に行うため、学習の主導に関する研究や（Griscti & Jacono, 2006）、看護職の継続的な専門職の開発（continuing professional development:CPD）など様々な取り組みが検討されてきた。我が国でも、専門職としての開発を主眼として施設が主体として行う継続教育に対して、日本看護協会が改訂版の「継続教育の基準 ver. 2」を提示し、看護師のキャリア発達を支援するシステムとしてクリニカル・ラダーが作成された。しかし、ラダーの獲得に積極的になれない状況があること（時吉，2005）や、ラダーの取得に「ランク付け」や「強制」といったネガティブな認識を持ち（小川，2011；松館，2010）自律的な学習となっていない現状が報告されている。</p> <p>このような看護師の自律的な学習への支援の必要性への関心の高まりから、看護師の学習動機や学習意欲に関する研究が進められてきているが、その中でも注目されているのが自己決定理論である。自己決定理論は、自律性に焦点を当てて動機づけを捉えていることが特徴であり、自律性の高い自律的動機づけが学習や健康、精神面で様々なポジティブな成果に繋がることを示している。この自律性の高い動機づけは、看護師の継続学習だけでなく、継続学習により看護師としての自分を作り上げ自己形成していく過程において重要な役割を果たすのではないかと考える。しかし、これまで我が国では自己決定理論に基づく学習動機づけ尺度は、子どもや学生を対象としたものが多く、成人学習者である看護師を対象としたものは見られない。そのため、看護師の自律的学習動機づけ尺度を開発し、看護師の自己形成も視野に入れた学習動機づけモデルを作成することが必要である。</p>			

□ 目的

本研究の目的は、看護師の自律的学習動機づけ尺度を開発し、クリニカル・ラダー研修に参加する看護師の自己決定がどのように学習を動機づけ、学習の継続意思を経て自己形成意識に影響するのかを明らかにすることである。

□ 方法

1. 看護師の自律的学習動機づけ尺度の開発と信頼性・妥当性の検証（研究 1）

1) 尺度原案の作成（概念分析・予備研究 1）

概念分析と予備研究 1 から看護師の自律的学習動機づけ尺度の原案を作成した。自己決定理論に注目し、自律的動機づけの概念分析を行って 8 個の属性を見出し、看護師への半構造化面接によって尺度項目を抽出した。看護師 13 名への面接から自己決定理論に示されている 5 つの自己調整を表す動機づけを抽出し、76 項目の尺度原案を作成した。

2) 尺度原案の表面妥当性・内容妥当性の検証（予備研究 2）

予備研究 2 として尺度項目の表面的妥当性と内容妥当性の検証のため、看護教育学の専門家を対象に、質問項目の適切さやわかりやすさ、各概念と質問項目の一致について意見を求め、質問項目の修正を行った。表面妥当性の検証では、76 項目の尺度原案の表現の適切性と分かりやすさを検討した結果、82 項目となった。さらに、内容妥当性の検証では、概念分析の 8 つの属性との一致を確認した結果、79 項目の仮尺度となった。

3) 尺度原案の信頼性・妥当性

研究 1 では、予備研究 2 で修正した尺度原案 79 項目について、項目分析と信頼性（Cronbach's α 係数の算出）、構成概念妥当性（探索的因子分析と確認的因子分析）、基準関連妥当性（「大学生の学習動機づけ尺度（岡田，2006）」との相関分析）の検討を行った。

2. 看護師の自律的学習動機づけと学習継続意思、自己形成意識との関連（研究 2）

研究 2 では、尺度項目の自律性の妥当性を検証した上で、自律的学習動機づけ（自律的動機づけ・統制的動機づけ）が自己決定感、自己決定欲求の影響を受け、学習継続意思を経て自己形成意識に影響することをモデル化（初期モデル）し、その検証を行った。

□ 倫理的配慮

すべての研究は、三重大学医学部附属病院医学系研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

□ 結果

1. 尺度の信頼性・構成概念妥当性（研究 1）

研究 1 では、346 名の看護師を対象とした。尺度の探索的因子分析の結果、50 項目 4 因子【1. 看護師個人の学習ニーズ】【2. 随伴的自尊感情】【3. 看護師としての義務と周囲の強制】【4. 専門職としての学習ニーズ】の尺度となった。その後、尺度の短縮化を行い 27 項目 4 因子となった。構成概念妥当性として、概念分析の 8 個の属性と 4 因子を比較すると、3 個の属性《行動に対する重要性の認識》《自分にとっての意味の認識》《自尊感情》では複数の項目が分割され、他の属性と統合されて新たな因子となっていた。一方、自己決定理論の 5 つの自己調整との対比では、【1. 看護師個人の学習ニーズ】が内的調整および同一化的調整、【4. 専門職としての学習ニーズ】が統合的調整、【2. 随伴的自尊感情】が取り入乐的調整、【3. 看護師としての義務と周囲の強制】が外的調整を示していた。また、

尺度の確認的因子分析の適合度にやや低い部分がみられたものの許容できる程度であり、信頼性も確認できた。

2. 看護師の学習動機づけと学習継続意思、自己形成意識との関連（研究 2）

研究 2 では、91 名の看護師を対象とした。まず、4 因子の自律性の程度を検討し、上位 2 つの因子を自律的動機づけ、下位 2 つの因子を統制的動機づけとした。また、自己決定の影響を受けた看護師の学習動機づけが学習継続意思を介して自己形成意識に繋がることを示した初期モデルは適合度が低く、自己決定感、自己決定欲求からの影響はみられなかった。そのため、初期モデルの係数と尺度間の相関から改良モデルを再構築して検証した。その結果、自律的動機づけと統制的動機づけはともに自己形成意識へ直接的に影響していることが示されたが、統制的動機づけの【3. 看護師としての義務と周囲の強制】は自己形成意識との相関が低く、自己形成意識への影響は低いと考えられた。また、自律的動機づけは学習継続意思へ正の影響が強くみられたが、統制的動機づけでは学習継続意思への影響は見られなかった。

□ 考察

1. 尺度の信頼性・構成概念妥当性（研究 1）

尺度の構成概念妥当性については、概念分析を構成概念とした妥当性は乏しいことが推測された。しかし、自己決定理論との対応を示すことができ、構成概念妥当性があると推測できた。また、確認的因子分析の適合度は許容できる範囲であり、信頼性も確認できたため、看護師の自律的学習動機づけ尺度として一定の妥当性と信頼性は確保できたと考える。

2. 看護師の学習動機づけと学習継続意思、自己形成意識との関連（研究 2）

看護師の自律的動機づけは学習継続意思に強い影響がみられ、自律的動機づけの行動継続への関連が示された。そのため、看護師の継続学習には自律的動機づけを高める必要性の根拠になると考える。また、統制的動機づけの【3. 看護師としての義務と周囲の強制】は自己形成意識には繋がらないことが示唆された。そのことから、自分で決めずに他者に従う動機づけでは自分の可能性を追求したり、さらに良くなろうと努力したりする自己形成意識が高まらず、自己形成につながらないと考えられる。また、自律的動機づけと統制的動機づけの学習継続意思への影響の違いは、2 つの動機づけの区分の妥当性を示唆していると考えられる。

□ 結論

看護師の自律的学習動機づけ尺度は、【4. 専門職としての学習ニーズ】【1. 看護師個人の学習ニーズ】【3. 看護師としての義務と周囲の強制】【2. 随伴的自尊感情】の 4 つの因子が示され、信頼性と妥当性が確認された。また、前者の 2 因子が自律的動機づけ、後者の 2 因子が統制的動機づけであることが示唆された。また、看護師の自律的動機づけは学習継続意思に強く影響するとともに、統制的動機づけとともに直接的に自己形成意識に繋がることを示された。